



つながろう! コラボしよう! 元気な“ながの”をつくろう!



ままる

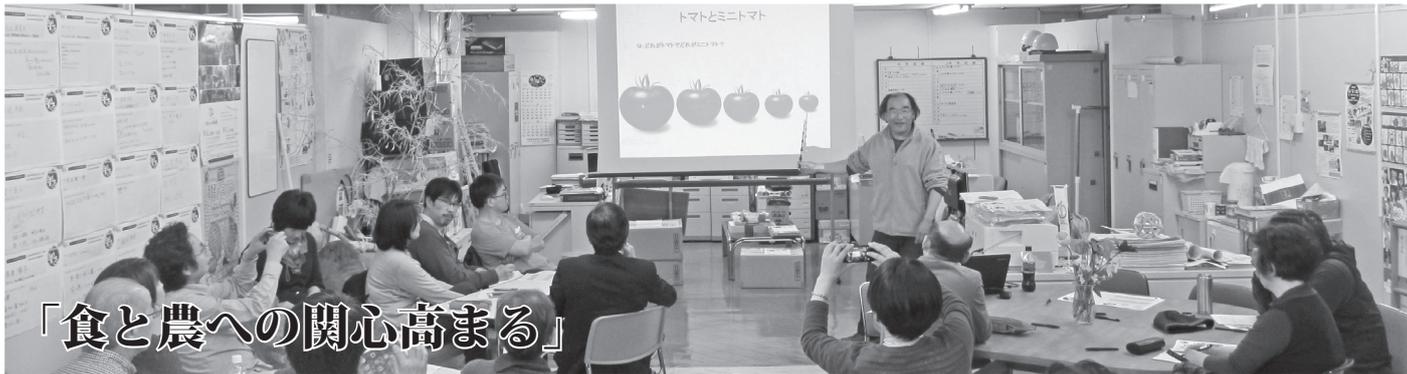
市民協働サポートセンター

TEL.026-223-0051 FAX.026-223-0052

〒380-0835 長野市新田町 1485-1 もんぜんぶら座 3F

npo@nagano-shimin.net http://naganoshimin.naganoblog.jp

・・・ NPO ・ 市民協働情報誌



「食と農への関心高まる」



農法について説明



「いい野菜とは」を発表



参加者と意見交換



特別企画 年4回開催! 食と農の座談会

地域再生や農

業の見直し、食の地産地消が注目を集める中、「NPOカフェままる」新企画として4回シリーズ「食と農の座談会」をスタートしました。第1回は4月21日に開催し22人が詰めかけました。Ohana Farm代表の農業者、亀垣嘉明さんがコーディネーターをつとめ「あなたにとつていい野菜とは」について話し合いました。

地域再生や農 業の見直し、食の地産地消が注目を集める中、「NPOカフェままる」新企画として4回シリーズ「食と農の座談会」をスタートしました。第1回は4月21日に開催し22人が詰めかけました。Ohana Farm代表の農業者、亀垣嘉明さんがコーディネーターをつとめ「あなたにとつていい野菜とは」について話し合いました。

参加した井川誠さん(ながの街なか市場)は「カタチはどうでも、香りや色がいい野菜。農薬が少ないほうがいい」、小川和子さん(NPO法人ライフデザインセンター)は「自分の畑から採って旬のものを食べられることが幸せなこと」、宮下勇人さん(ひだまりマーケット)は「安心安全で、自信をもって人にすすめられる野菜」、吉田喜美夫さん(関東農政局長野地域センター)は、「食べ

野菜作りのプロ・亀垣さんは「安心安全という志向が皆さんの中で大きい。私は有機栽培農家ではないが、安全性については学んでいる。無農薬とは何か、有機栽培と慣行栽培の違いは何か。農薬や化学肥料の使い方や安全性をわかった上で、野菜を口にして欲しい」と図で説明しました。

野地(地域センター)は、「食べ

次回野菜ソムリエ増田朱美さんがコーディネーターとなり、「体が求める本当の旬とは？」をテーマに7月21日に開催予定。10月は君島登茂樹さん(Farmer's Kitchen GONDO)、1月は渡辺啓道さん(ふるば村自然農園・NAGANO 農と食の会)がコーディネーター予定。

みそフェスタ2015 in長野

一杯のみそ汁でみそ美人



市民や企業・NPOの協働プロジェクトとして昨年から活動が続けている、ながの協働ねっと「信州発！一杯の味噌汁プロジェクト」。味噌汁を通して人と人、食と地域をつなげる活動をしています。

7月25日、親子で楽しく学ぶイベント「みそフェスタ2015 in長野」一杯のみそ汁でみそ美人をTOIGO Oで開催します。味噌の良さを学び、一日に一杯は必ず食卓に味噌汁が並ぶ食習慣を広げ、家庭ならではの「味」の継承につなげようという食育イベントです。

長野県は味噌の消費量・生産量ともに日本一でありながら、味噌について学ぶ機会が少ないのはもったいない！まずは味噌の美味しさや効力について学ぶ機会を提供していくと企画しました。

協働を意識し、NPO関係者はもちろん、市民や企業・行政も様々な形で参画。みそボールちゃん体験ワークショップ、みそ蔵訪問、パネルシアター、利きみそ、みそ関連商品販売会、ながのいちTOIGO市、チョコベジ体験会など、様々な形で信州の味噌や野菜に親しめる機会を提供します。

メイン企画は、コーディネーターに広島大学名誉教授の渡邊敦光さんを招いてのシンポジウム「一杯のみそ汁から始まる食育」。参加者にと



実行委員会の様子

もに楽しく学びます。パネルリストには、一杯の味噌汁プロジェクト発案者の小山明子さん（秋田市在住）や、味噌ソムリエの佐々木愛さん（岡谷市在住）、脚本・演出家でフリーライター・河野万寿美さん、当プロジェクトリーダーの飯島美香が登場予定。それぞれの立場からの意見に期待が高まります。また、『基調公演』として、昨年6月食育推進全国大会で旗上げ公演を熱演した、食育劇団ええつつこが新作を披露。コーディネーターやパネリストも出演予定です。

問い合わせは、ながの協働ねっと事務局（当市民協働サポートセンター）まで。

食・農・山村体験とまちむら交流会

平成の大合併により、多くの中山間地が長野市に加わりました。市が広くなったため、同じ市内であるにもかかわらず、知らないことが多くなりまして。そこで当センターでは「まちむら交流会」を今年も4回開催する予定です。市内の中山間地で食文化、農作業体験等を通じて、市街地の人と地元の人との交流を育み、援農や地域づくりへの協働につなげていくことを目的にしています。

昨年の中条地区で、夏は麦刈りと地粉でのすいとんづくり、秋は麦蒔きと夏に刈った小麦粉を使ってのうどん打ち、冬は野沢菜収穫とこんにゃくづくりを体験しました。市街地で暮らしていると、なかなか農作業体験をする機会がないので、とても貴重な体験ができた、参加者は大



こんにゃくづくりに楽しお参加者

満足でした。第1回目は、6月30日に開催。すいとんやうどん、おやきなどに使う麦の種類やその育ち方について地元の人から直に学びました。9月には2回目を信州新町で開催予定です。信州新町の産業として知名度の高い羊ですが、羊が飼われている姿を見たことのある人は少ないのではないのでしょうか。そこで、信州新町にある羊の牧場で、羊と触れ合い、えさやりなどの牧場体験を予定しています。

「ながの」ならではの体験を通して、多くの人とふれあいましょ。

食と農への関心高まる



今年のゴールデンウィーク、善光寺御開帳で賑わう中央通りの歩行者天国で、「カシスソフトクリーム」の移動販売車が登場し、人気となりました。食べた人からは「インパクトがあるすっぱさ」、「さわやかな風味」「色がきれい」などの感想が聞かれました。

販売したのは「カシスプロジェクト」。昨年から地元農・商・工の事業者らが集まり、新しい特産品づくりを進めています。長野市真島の農家グループ「長野カシスの会」が、信州の地域資源を活かすものづくりを広く支援する「NPO法人日本の工芸と文化」にカシスの販売促進を相談したことがきっかけでし

信州カシスプロジェクト〜農商工連携で長野を売り出す!

NPOそして、農・商・工の事業者がそれぞれのスキルやネットワークを活かして、地域づくりの核となる農産加工品を「創る」——市内の6次産業振興をリードしていくことが期待されます。

た。カシスは独特の酸味・苦味があり、カクテル・リキュールの原料、また料理やスイーツの素材として最近注目されている食材。ビタミン類やアントシアニンなどの栄養素が豊富に含まれ、眼精疲労や肩こりの解消などに効果があるとされています。

様々な立場の人たちがワークショップでの話し合いと試食を重ね、完成した「カシスソフトクリーム」。素材の良さをダイレクトに伝えると同時に、こどもから大人まで気軽に味わえるところが商品開発のポイントでした。今年も県内外で販売し、信州のさわやかなイメージに合った「カシス」の地域ブランド化を推進します。

2015年7月～9月 市民協働サポートセンター まんまる スケジュール

タイトル	日時	会場	内容	
初歩講座 「きほんのき」	7月22日(水) 13:30～16:00 8月26日(水) 18:30～21:00 9月23日(水) 13:30～16:00	市民協働サポートセンター	「NPOってなあに?」法人を設立したいという人もまずはこの講座から始めましょう。	
ステップアップ講座 広報のいろは 「フリーペーパーの作り方 Vol.2」	9月10日(木) 13:30～16:00	もんぜんぷら座 301 会議室	大人気の講座「フリーペーパーの作り方」第2回目。今回は実践編「企画・取材・原稿書き・編集・印刷の流れ」+プチ写真撮影基礎講座付き。講師は当センターコーディネーター寺澤順子(編集者)・立岡淳志(写真家)	
SCC コミュニティビジネスを目指す 働く世代のための交流会	毎月原則 第一金曜日 13:00～15:00 7月3日、8月7日、9月4日	もんぜんぷら座内 304 会議室	まちづくり・住まう・観光・芸術・国際化・ネット広報・・・いろいろな分野で夢に向かって頑張る仲間と会って話そう!そしてお互いを応援しあおう!	
新!元祖 NPOカフェ まんまる	体が求める 本当の“旬”とは? ～野菜ソムリエに学ぶ 旬の味わい方～	7月21日(火) 13:30～15:30	市民協働サポートセンター	シリーズ「食と農の座談会」(年4回)第2弾のテーマは「旬」。旬とは、物事の適期。特に魚・貝・野菜・果物などの出盛りで最も美味しい時期とされています。旬の野菜・果物と体への関係について考えていきます。
	ママのためのママによる 子育て応援見本市(仮称)	8月28日(金) 10:30～12:30	市民協働サポートセンター もんぜんぷら座 303 会議室	ながの子育てネットに登録している団体・個人がどんな活動をしているか?出展形式で多くの方に見て、ふれて、知ってもらう“情報見本市”です!子育て応援団一覧ブックのお披露目会を兼ねます。
	古き良き時代に タイムスリップ	9月15日(火) 13:30～15:30	もんぜんぷら座 BOX2	古い時代の文化遺産である蓄音機のレコード鑑賞を通して、それを発明したエジソンの偉大さに触れ、何かを発見することの大切さについて改めて考えてみませんか?誰もが親しめる懐かしの曲たちが、人と人をつないでくれます。

Pick up! NPO!

～パワフルな団体を紹介します～



プロレスのひとこま

障がい者が自ら物事を起こそうという活動を積極的に支援しているスカイ・ロード。団体の名前は「大空はどこまでも続いていて、境目が無い。世の中もそういう風になってほしい」ということから由来しています。

障がい者が自ら物事を起こそうという活動を積極的に支援しているスカイ・ロード。団体の名前は「大空はどこまでも続いていて、境目が無い。世の中もそういう風になってほしい」ということから由来しています。障がいも身体・精神・

知的がそれぞれあり、多様な顔ぶれが揃います。また、サポートに入るのは、ケアマネージャー・介護福祉士・養護教諭など専門的な知識のある人たち。安全に配慮して活動しています。

施設の入ったのち「車いすマラソン」の世界に身を置きます。ランナーたちは、積極的に外に出るひとが多いのですが、街に行くと、実際は外出するひとはほんの一部。吉本さんは「ひとりでも多くの障がい者が、外に出てきてほしい。そうすることが、世の中を変えるきっかけになる」と強く思ったのです。その体験が、スカイロードの活動の原動力となっています。

Sky Road
☎070-6999-2984

障がい者の「やりたい」を形に

Sky Road



忍者にふん装して行った総会

インバウンド（外国人観光客誘致）活動をするNINJA Projectは、去る5月18日、NPO法人の設立総会を行いました。「Connecting Nagano with the World.（つながる、長野を世界に）」を

使命としています。09年、戸倉上山田温泉「亀清旅館」若旦那で米国出身のタイラー・リンチさんの声かけで、NPO代表や企業経営者、大学教授などが集まり研究会を発足。10年度には市のまちづくり活動補助金を活用して、学生の協力で善光寺などでアンケート調査を行い、全県でインバウンド啓発活動を行うことができました。

14年度には、県から事業委託を受け、外国人目線を意識し、観光スポット・体験・宿泊施設・飲食店など県内300の情報を調査。英・中・タイの言語に翻訳を行いました。その情報を観光ウェブサイトにアップし「Unique Nagano」に反映し公開したばかりです。それを核に、講演会等によるインバウンド啓発、観光パンフレット・メニューなどの翻訳、モデルコース企画などの活動を予定しています。

「NPOだからこそ、団体それぞれにすすめている活動をつなぐ役割となれば」とタイラーさん。自治体や公共団体、学校、企業、宿泊施設などと協働して、全県でおもてなしのまちづくりを進めようとしています。

秋にはインバウンドをテーマにシンポジウムを予定。会員募集中（賛助会員一口3000円、学生会員無料）

NINJA Project
(NPO法人申請中)
☎026-219-3598

外国人目線で世界に長野をつなぐ

NINJA Project (NPO法人申請中)